

平成30年告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 内容一覧表

H31. 2 八代市立八代支援学校 支援部作成

① 健康の保持						P.51～P.60
項目	項目の意味	具体例	背景・原因	対応策	他区分との関連例	
1	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活リズムを身につけること、食事や排泄などの生活習慣の形成、衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など	●障害が重度で重複している	睡眠、食事、排泄というような基礎的な生活リズムが身につくようにするなど	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の幼児児童生徒の困難の要因を明らかにした上で、無理のない課題から取り組むことが大切。 ・生活のリズムや生活習慣の形成は、日課に即した日常生活の中で指導することによって養われることが多い。 ・清潔や衛生を保つことの必要性を理解できるようにし、家庭等との密接な連携の下に不衛生にならないように日常的に心がけられるようにすること。 	4環境の把握 5身体の動き 等
			●視覚障害	昼夜の区別がつきにくいことから覚醒と睡眠のリズムが不規則になり、昼夜逆転した生活になることがある。		
			●自閉症	特定の食物や衣服に強いこだわりを示す。また、相手からどのように見られているのかを推測することが苦手な場合がある。		
			●ADHD	周囲のことに気が散りやすいことから一つ一つの行動に時間がかかり、整理・整頓などの習慣が十分に身につけていない。		
2	病気の状態の理解と生活管理に関すること。	自分の病気の状態を理解し、その改善を図り、病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め、それにも基づく生活の自己管理ができるようにすること	●糖尿病	生活習慣や運動不足等の生活習慣と関連する2型が増加	<ul style="list-style-type: none"> 自己の病気を理解し、病状に応じた対応ができるとともに生活管理について主体的に行う。排泄指導、清潔の保持、水分の補給、検尿を行うことに関する指導等を行う。 病気を正しく理解し、生活の自己管理に留意した指導を行う。 医師の了解を得た上で、本人が病気の仕組みと治療方法を理解するとともにストレスの軽減を図るような指導を行う。(日記、小集団の話し合い) 聞こえの状態に留意したり、丁寧な歯磨きの習慣形成に努めたりするなどして、病気の予防や健康管理を自らできるようにする。 生活のリズムの安定を図ること、過度に疲労しないようにすること、忘れずに服薬すること等が重要。定期的な服薬の必要性について理解させるとともに確実に自己管理できるよう指導する。 病気の予防や適当な運動や睡眠等の健康管理を自らできるようにする。 	2心理的な安定 6コミュニケーション 等
			●二分脊椎			
			●進行性疾患			
			●うつ病などの精神性疾患	食欲の減退などの身体症状、興味や関心の低下や意欲の減退などが見られるが、これらが病気によるものであることが理解できない。		
			●口蓋裂の既往症	滲出性中耳炎や虫歯になりやすい。		
			●てんかん			
			●小児がん			

3	身体各部の状態の理解と養護に関すること。	病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、病状の進行を防止したりできるようにすること	●視覚障害		発達の段階に応じて十分な理解を図ることが必要。学習中の姿勢に留意したり、危険な場面での対処方法を学んだりして、視覚管理を適切に行うことができるよう指導する。	
			●聴覚障害		発達の段階に応じて十分な理解を図ることが必要。補聴器を用いる際の留意点を促すなど、自ら適切な聞こえの状態を維持できるように指導する。	
			●下肢切断、床ずれ等		病気や事故等による身体各部の状態を理解し、自分の生活を自己管理していくよう指導する。医療との関係を密に行う。	
			●筋ジストロフィー		運動の自己管理ができるように指導する。	2心理的な安定 6コミュニケーション等
4	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 NEW	自己の障害にどのような特性があるのか理解し、それらが及ぼす学習上又は生活上の困難についての理解を深め、その状況に応じて自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりして、より学習や生活をしやすい環境にしていくこと	●吃音	吃音に関する知識を得る機会がないと吃症状が生じることへの不安や恐怖感を持ち内面の葛藤を一人で抱えることがある。	安心した場の中で吃音について学び、いわゆる吃音の波に応じて内容と伝え方を話し合ったりする。	
			●感覚過敏、こだわり	大きな音、予定通りに物事が進まない状況があると情緒が不安定になる。	自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるようにする。	
			●LD・ADHD	学習や対人関係がうまくいかない。自分の長所、短所得手不得手を客観的に認識することが難しい。他者との違いから自分を否定的に捉えてしまう。	個別指導や小集団などの指導形態を工夫しながら対人関係に関する技能を習得する中で、自分の特性に気づき、自分を認め、生活上必要な支援を求められるようにすることが大切	
			●視覚障害			2心理的な安定
			●聴覚障害			3人間関係の形成 4環境の把握 2心理的な安定 6コミュニケーション等
5	健康状態の維持・改善に関すること。	障害のため、運動量が少なくなったり、体力が低下したりすることを防ぐために、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにすること	●重度重複	健康の状態を明確に訴えることが困難	様々な場面で健康観察を行うことにより、変化しやすい健康状態を的確に把握すること	1健康の保持
			●医ケア的ケア児		健康状態の詳細な観察が必要。養護教諭や看護師との十分な連携を図る。	2心理的な安定
			●知的障害、自閉症	運動量が少なく肥満、体力低下を招いたりする者もみられる。また、不登校などの二次的要因により体力低下	適度な運動を取り入れたり、食生活と健康について実際の生活に即して学習したりなど自己の健康管理ができるように指導する。	
			●心臓疾患			

平成30年告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 内容一覧表

H31. 2 八代市立八代支援学校 支援部作成

② 心理的な安定						P.60～ P.67
項目	項目の意味	具体例	様子・背景・原因	対応策	他区分との関連例	
□	情緒の安定に関すること。	生活環境など様々な要因から、心理的に緊張したり不安になったりする状態が継続し、集団に参加することが難しくなることがある。	●白血病	入院中は治療の副作用による貧血や嘔吐などが長期間続き情緒不安定になることがある。	悩みを打ち明けたり、自分の不安な気持ちを表現できるような活動をしたりするなどして、情緒の安定を図ることが大切である。	4環境の把握 5身体の動き 等
			●自閉症	他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい場合、自ら自分を叩いてしまう、他者に対して不適切な関わり方をしてしまうことがある。	自分を落ち着かせることができる場所に移動して、慣れた別の活動に取り組むなどの経験を積み重ねていきながら、その興奮を静める方法を知ることや、様々な感情を表した絵カードやメモなどを用いて自分の気持ちを伝えるなどの手段を身に付けられるように指導することが大切である。	
			●ADHD	自分の行動を注意されたときに、反発して興奮を静められなくなることがある。 注意や集中を持続し、安定して学習に折組むことが難しいことがある。	自分を落ち着かせることができる場所に移動してその興奮を静めることや、いったんその場を離れて深呼吸するなどの方法があることを教え、それらを実際に行う事ができるように指導することが大切である。 刺激を統制した落ち着いた環境で、必要なことに意識を向ける経験を重ねながら、自分に合った集中の仕方や課題への取り組み方を身に付け、学習に落ち着いて参加する態度を育てていくことが大切である。	
			●LD	読み書きの練習を繰り返し行っても、期待したほどの成果が得られなかった経験から、生活全般において自信を失っている場合がある。そのため自分の思う結果が得られず感情的になり、情緒が不安定になることがある。	本人が得意なことを生かして課題をやり遂げるように指導し、成功したことを褒めることで自信をもたせたり、自分のよさに気付くことができるようにしたりすることが必要である。	
			●チックの症状	不安や緊張が高まった状態になると、身体が動いてしまったり、言葉を発してしまうことがある。	不安や緊張が高まる原因を知り、自ら不安や緊張を和らげるようにするなどの指導をすることが大切である。	
			●障害が重度で重複している	情緒が安定しているかどうかを把握することが困難な場合がある。	その判断の手がかりとして「快」、「不快」の表出の状態を読み取ることが重要である。そして、安定した健康状態を基盤にして「快」の感情を呼び起こし、その状態を継続できるようにするための適切なかわり方を工夫することが大切である。 障害があることや過去の失敗経験等により、自信	3人間関係の形成 6コミュニケーション

					<p>をなくしたり、情緒が不安定になりやすかったりする場合には、機会を見つけて自分のよさに気付くようにしたり、自信がもてるように励ましたりして、活動への意欲を促すように指導することが重要である。</p>	
□	<p>状況の理解と変化への対応に関すること。</p>	<p>場所や場面が変化することにより、心理的に圧迫を受けて適切な行動ができなくなる幼児児童生徒の場合、教師と一緒に活動しながら徐々に慣れるよう指導することが必要である。</p>	<p>●視覚障害</p>	<p>見えなかったり、見えにくかったりして周囲の状況を即座に把握することが難しいため、初めての環境や周囲の変化に対して、不安になることがある。</p>	<p>教師が周囲の状況を説明するとともに、幼児児童生徒が状況を把握するための時間を確保したり、急激な変化を避けて徐々に環境に慣れたりすることが大切である。また、日ごろから一定の場所に置かれている遊具など、移動する可能性の少ないものを目印にして行動したり、自ら必要な情報を得るために身近な人に対する的確な援助を依頼したりするなどを身に付けることが大切である。</p>	<p>2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握</p>
			<p>●選択性かん黙</p>	<p>特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家庭などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある。</p>	<p>本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の定時や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒の安定を図りながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である。</p>	
			<p>●自閉症</p>	<p>日々の日課と異なる学校行事や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり、不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある。</p> <p>特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面を切り替えることが難しいことがある。このようなこだわりの要因としては、自分にとって快適な刺激を得ていたり、不安な気持ちを和らげるために自分を落ち着かせようと行動していたりしていることが考えられる。</p>	<p>予定されているスケジュールや予想される状況等を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりするなど、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりするための指導をすることが大切である。また、周囲の状況に意識を向けることや経験したことを他の場面にも結び付けて対応することが苦手なため、人前で年齢相応に行動する力が育ちにくいことがある。そこで、行動の仕方を短い文章にして読むようにしたり、適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けさせていくことが大切である。</p> <p>特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の行動に移ることができるように段階的に指導することが大切である。その際、特定の動作や行動を行ってもよい時間帯や回数あらかじめ決めたり、自分で予定表を書いて確かめたりして、見通しをもって落ち着いて取り組めるように指導することが有効である。</p>	<p>3 人間関係の形成 4 環境の把握</p>

<p>□ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。</p>	<p>障害による学習上又は生活上の困難を理解し、それを改善・克服する意欲の向上を図る方法は、障害の状態により様々であるが、指導を行うに当たっては、幼児児童生徒の心理状態を把握した上で指導内容・方法を工夫することが必要である。</p>	<p>●筋ジストロフィー</p>	<p>小学部低学年のころは歩行が可能であるが、年齢が上がるにつれて歩行が困難になり、その後、車いす又は電動車いすの利用や酸素吸入などが必要となることが多い。また、同じ病棟内の友だちの病気の進行を見ていることから将来の自分の病状についても認識している場合がある。</p>	<p>卒業後も視野に入れながら学習や運動において打ち込むことができるを見つけ、それに取り組むことにより、生きがいを感じることもできるよう工夫し、少しでも困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る指導が大切である。</p>	
		<p>●肢体不自由</p>	<p>移動が困難。</p>	<p>手段を工夫し実際に自分の力で移動ができるようになるなど、障害に伴う困難を自ら改善し得たという成就感がもてるような指導を行うことが大切である。特に、障害の状態が重度のため、心理的な安定を図ることが困難な幼児児童生徒の場合、寝返りや腕の上げ下げなど、運動・動作をできるだけ自分で制御するような指導を行うことが、自己を確立し、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲を育てることにつながる。</p>	
		<p>●LD</p>	<p>数字の概念や規則性の理解や、計算することに時間がかかったり、文章題の理解や推論することが難しかったりすることで、自分の思う結果が得られず、学習への意欲や関心が低いことがある。</p> <p>文章を読んで学習する時間が増えるにつれ、理解が難しくなり、学習に対する意欲を失い、やがては生活全体に対しても消極的になってしまうことがある。このようなことになる原因としては、漢字の読みが覚えられない、覚えてもすぐに思い出すことができないなどにより、長文の読解が著しく困難になること、また、読書を嫌うために理解できる語彙が増えていかないことも考えられる。</p>	<p>自己の特性に応じた方法で学習に取り組むためには、周囲の励ましや期待、賞賛を受けながら、何が必要かを理解し、できる、できたという成功体験を積み重ねていくことが大切である。</p> <p>振り仮名を振る、拡大コピーをするなどによって自分が読みやすくなることを知ることや、コンピュータによる読み上げや電子書籍を利用するなどの代替手段を使うことなどによって読み取りやすくなることを知ることについて学習することが大切である。また、書くことの困難さを改善・克服するためには、口述筆記のアプリケーションやワープロを使ったキーボード入力、タブレット型端末のフリック入力などが使用できることを知り、自分に合った方法を習熟するまで練習することなども大切である。これらの使用により、学習上の困難を乗り越え、自分の力で学習するとともに、意欲的に活動することができるようにすることが大切である。こうした代替手段等の使用について指導するほか、代替手段等を利用することが周囲に認められるように、周囲の人に依頼することができるようになる指導も必要である。</p>	<p>4環境の把握 6コミュニケーション</p>

●障害に起因して心理的な安定を図ることが困難		同じ障害のある者同士の自然なかかわりを大切にしたり、社会で活躍している先輩の生き方や考え方を参考にできるようにして、心理的な安定を図り、障害による困難な状態を改善・克服して積極的に行動しようとする態度を育てることが大切である。	
●聴覚障害	人とのコミュニケーションを円滑に行う事ができなかったり、音声のみの指示や発話を理解することができなかったりするため、学習場面や生活場面において、人とかかわることや新しい体験をすることに対して、消極的になってしまうことがある。	自分自身の聞こえにくさによって、人とかかわる際にどのような困難さが生じるのかや、新しい体験をする際にどのように行動したり、周囲に働きかけたりするとよいのかを考えたり、体験したりすることを通して、積極的に問題解決に向かう意欲を育てることが重要である。	1 健康の保持 4 環境の把握 6 コミュニケーション
●吃音	学校生活等においてできるだけ言葉少なくすまそうとするなど消極的になることがある。このような要因として、人とのコミュニケーションに不安感や恐怖感を抱えていることが考えられる。	自立活動担当教師との安心できる関係の中で、楽しく話す体験を多くもつこと、様々な話し方や読み方を体験したり、自分の得意なことに気付かせて自信をもたせたりすること等を通して、吃音を自分なりに受け止め、積極的に学習等に取り組むようにすることが大切である。その際、好きなことや得意なことを話題にして自ら話せるようにするとともに、達成感や成功感を味わえるようにすることも必要である。	1 健康の保持 3 人間関係の形成 6 コミュニケーション
●知的障害	コミュニケーションが苦手で、人と関わることに消極的になったり、受け身的な態度になったりすることがある。このような要因としては、音声言語が不明瞭だったり、相手の言葉が理解できなかったりすることに加えて、失敗経験から人と関わることに自信がもてなかったり、周囲の人への依存心が強かったりすることなどが考えられる。	自分の考えや要求が伝わったり、相手の意図を受け止めたりする双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ね、自ら積極的に人とかわらうとする意欲を育てることが大切である。その上で、言語の表出に関することやコミュニケーション手段の選択と活用に関することなどの指導をすることが大切である。	4 環境の把握 6 コミュニケーション

平成30年告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 内容一覧表

H31. 2 八代市立八代支援学校 支援部作成


③ 人間関係の形成						P.67～ P.72
項目	項目の意味	具体例	背景・原因	対応策	他区分との関連例	
1	他者とのかかわりの基礎に関すること。	人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすること	●重度の障害	障害による様々な要因から基本的な信頼感の形成が難しい。 人に対する認識がまだ十分に育っておらず、他者からの働き掛けに反応が乏しい。	抱いて揺さぶるなどの子どもが好む関わりを繰り返し行って、かかわる者の存在に気付くことができるようにすることが必要。	
			●自閉症	他者とのかかわりを持つとうとするが、その方法が十分に身につけていない。	身近な教師とのかかわりから、少しずつ、教師との安定した関係を形成することが大切。やりとりの方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、そのやりとりの方法が定着するようにし、相互にかかわり合う素地を作ることが重要。嬉しい気持ちや悲しい気持ちを伝えにくい場合には、絵やシンボルマークなどを用いながら、視覚的に理解できるようにする。	
			●視覚障害	相手の顔が見えない、見えにくいいため他者とのかかわりが消極的、受動的になってしまう。	自分の顔を相手の声が聞こえてくる方向に向けるようにしたり、相手との距離を意識して声の大きさを調整したりするなどのコミュニケーションを図るための基本的な指導を行う。	2心理的な安定 6コミュニケーション
2	他者の意図や感情の理解に関すること	他者の意図や感情を理解し、場に合った適切な行動をとることができるようにすること	●自閉症	相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある。また、言葉を字義通りに受け止めてしまうので真意の読み取りを間違えることがある。	生活上の様々な場面を想定し、相手の言葉や表情などから、相手の考えていることを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身につけることが大切。	
			●視覚障害	相手の表情を視覚的にとらえることが困難なため、相手の意図や感情の変化を読み取ることが難しい。	相手の声の抑揚や調子の変化などを聞き分けて、話し相手の意図や感情を的確に把握するとともに、その場に応じて適切に行動することができる態度や習慣を養うように指導する。	
			●聴覚障害	視覚的な手掛かりだけで判断したり、会話による情報把握が円滑でないため自己中心的にとらえやすい。	多様なコミュニケーション手段を場面や相手に応じて適切に選択し、的確に会話の内容を把握することも必要。	2心理的な安定 4環境の把握 6コミュニケーション
3	自己の理解と行動の調整に関すること。	自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになること	●知的障害	過去の失敗等の積み重ねにより自分に対する自信が持てず、行動することをためらいがちになる。	本人が容易にできる活動を設定し、成就感を味わうことができるようにして、徐々に自信を回復しながら、自己に肯定的な感情を高めていくことが大切。	

		●肢体不自由	経験が乏しいことから自分の能力を十分理解できていないことがある。	自分でできること、補助的な手段を活用すればできること、他の人に依頼して援助を受けること等について、実際の体験を通して理解を促すことが必要。	
		●ADHD	衝動の抑制が難しかったり、自己の状態の分析や理解が難しかったりするため、同じ失敗を繰り返したり目的に沿って行動を調整することが苦手だったりすることがある。	自分の行動とできごととの因果関係を図示して理解させたり、実現可能な目当ての立て方や点検表を活用した振り返りの仕方を学んだりして、自ら適切な行動を選択し調整する力を育てていく。	
		●自閉症	自分の長所や短所に関心が向きにくいなど、自己の理解が困難。他者の意図や感情の理解が十分でないことから、友達の行動に対して適切に応じることができない。 特定の光や音などにより混乱し、行動の調整が難しくなることがある。	体験的な活動を通して自分の得意なことや不得意なことの理解を促したり、他者の意図や感情を考え、それへの対応方法を身につけたりする指導を関連づけて行う。 光や音などの刺激の量を調整したり、避けたりするなど、感覚や認知の特性への対応に関する内容も関連づけて具体的な指導内容を設定する。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 4環境の把握
4	集団への参加の基礎に関すること。	●視覚障害	目で見ればすぐに分かるようなゲームのルールなどがとらえにくく、集団の中に入っていけないことがある。	あらかじめ集団に参加するための手順や決まり、必要な情報を得るための質問の仕方などを指導して、積極的に参加できるようにする。	
	集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するための手順や決まりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようになること	●聴覚障害	場面や相手によっては、行われている会話などの情報を的確に把握できにくいことがある。	会話の背景を想像したり、実際の場面を活用したりして、どのように行動すべきか、また、相手はどのように受け止めるかなどについて、具体的なやりとりを通して指導することが大切。	
		●LD	言葉の意味理解の不足や間違いなどから、友達との会話の背景や経過を類推することが難しく、そのために集団に積極的に参加できないことがある。	日常的によく使われる友達同士の言い回しや、その意味することが分からないときの尋ね方などを、あらかじめ少人数の集団の中で学習しておく。	
		●ADHD	遊びの説明を聞き漏らしたり、最後まで	ロールプレイによって適切な行動を具体的に指導	2心理的な安定

			聞かずに遊び始めたりするためにルールを十分に理解しないで遊ぶ場合がある。また、勝ちたいという気持ちから、ルールを守ることができない。	したりすることが必要。また、遊びへの参加方法が分からないときの不安を静める方法を指導する。	6コミュニケーション
--	--	--	--	---	------------

平成30年告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 内容一覧表

H31.2 八代市立八代支援学校 支援部作成

④ 環境の把握 P.72～P.83						
1	項目	項目の意味	具体例	背景・原因	対応策	他区分との関連例
1	保有する感覚の活用に関すること。	保有する視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにすること	●障害が重度で重複している	視覚、聴覚、触覚と併せて姿勢の変化や筋、関節の動きなどを感じ取る固有覚や前庭覚を活用することができるようにすることも考慮する必要がある	個々の感覚の状態とその活用の方法を的確に把握した上で、保有する感覚で受け止めやすいように情報の提示の仕方を工夫することが大切。細かなステップを追って、視覚と聴覚を協調させたり、視覚と手の運動を協調させたりする指導が求められる	5 身体の動き 6 コミュニケーション
			●視覚障害		聴覚や触覚を活用し、弱視であれば、保有する視覚を最大限に活用する。その他の感覚も十分に活用して、学習や日常生活に必要な情報を収集するための指導を行う	
			●聴覚障害		補聴器等の装用により、保有する聴力を十分活用していくための指導 磁気ループを用いた集団補聴システム FM 電波や赤外線を用いた集団補聴システム FM 補聴器等の機器に応じた活用	
			●肢体不自由	運動・動作に伴う筋の収縮・伸張、関節の屈曲・伸展などに制限や偏りがあり、自分自身の体位や動きを把握し調整することに困難さが見られる	自分自身の体位や動きについて、視覚的なイメージを提示したり、分かりやすい言葉で伝えたりして、自分の身体を正しく調整することができる力を身につけること	
2	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 	障害のある幼児児童生徒一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにするとともに、特に自己の感覚の過敏さや認知の偏りなどの特性について理解し、適切に対応できるようにすること	●視覚障害	屋外だけでなく屋内においても蛍光灯などにまぶしさを強く感じることがある。	遮光眼鏡を装用するよう指導するとともに、その習慣化を図ることが大切。 室内における見えやすい明るさを必要に応じて他者に伝えたり、カーテンで明るさを調整したりできるように指導することが大切。	2 心理的安定 6 コミュニケーション等
			●自閉症	聴覚の過敏さのため特定の音に、また、触覚の過敏さのため身体接触や衣服の材質に強く不快感を抱くことがある。 刺激が強すぎたり、突然であったりすると、感情が急激に変化したり、思考が混乱したりすることがある。	不快である音や感触などを自ら避けたり、幼児児童生徒の状態に応じて、音が発生する理由や身体接触の意図を知らせるなどして、それらに少しずつ慣れていったりするように指導することが大切。 個々の幼児児童生徒にとって、快い刺激は何か、不快な刺激は何かきめ細かく観察しておくことが必要。	
			●ADHD	注意機能の特性により、注目すべき箇所がわからない、注意持続時間が短い、注	注目すべき箇所を色分けしたり、手で触れるなど他の感覚も使ったりすることで注目しやすくしな	

			目する対象が変動しやすい。	がら、注意を持続させることができることを実感し、自分に合った注意集中の方法を積極的に使用できるようにすることが大切	
		● LD	視知覚の特性により、文字の判別が困難になり「め」と「ぬ」を読み間違えたり文節を把握することができなかつたりする。	本人にとって読み取りやすい書体を確認したり、文字間や行間を広げたりして負担を軽減しながら新たな文字を習得していく方法を身につけることが大切	
		●脳性疾患	認知面において不得意なことがある一方で得意な方法を持っていることが多い。	本人が理解しやすい学習方法を様々な場面にどのように用いればよいのかを学んで、積極的に取り入れていくように指導することが大切。 (見やすい書体・文字の大きさ・文字間や行間文節を区切る・アンダーラインを引く)	
		●脳性まひ	文字や図形を正しく捉えることが困難な場合がある。原因として数多く書かれてある文字や図形の中から一つの文字や図形に注目することや、文字や図形を構成する線や角度の関係を理解することが難しい。	一つの文字や図形だけを取り出して輪郭を強調して見やすくしたり、文字の部首や図形の特徴を話し言葉で説明したりすることが効果的。	
		●上肢にまひ	文字や図形を書くことが難しい	コンピュータ等を活用して書くことを補助する。また、学習活動を通じて、話し言葉で聴いた方が理解しやすいというような自分の得意な学習スタイルを知り、自ら使えるように指導することも大切	
		●体の動かし方にぎこちなさのある	指先を細かく動かす活動や全身を協調して動かす運動が苦手。固有覚や前庭覚の発達の段階等によるものが要因	現在できている動作がより確実にできるように取り組むとともに、指や身体を、一つ一つ確かめながらゆっくり動かすようにするなど、発達段階に見合った運動からおこなうようにする	5 身体の動き 2 心理的な安定 3 人間関係の形成
3	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	保有する感覚を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにしたり、他の感覚や機器での代行が的確にできるようにしたりすること	● 視覚障害 小さな文字など細かなものや遠くのものを読み取るのが難しい	遠用・近用などの各種の弱視レンズや拡大読書器などの視覚補助具、タブレット型端末などを効果的に活用できるように指導することが大切。明るさの変化を音の変化に変える感光器のように視覚以外の感覚で確認できる機器を必要に応じて活用できるように指導することも大切。	
		●聴覚障害	補聴器や人工内耳を装着していても、音や他者の話を完全に聞き取れるわけでは	手話や指文字、キュード・スピーチ（話し言葉の音韻を五つの母音口形と子音を手指で表す記号(キ	

			ない。 視覚を活用した情報収集の方法	ユー）との組み合わせで表現する方法又はキューサインなど)、口形、読話(相手の口形や表情を基にして理解する方法)などがあり、それぞれの特徴や機能を理解していくことが重要。 聴覚以外の感覚を適切に活用できる力を養うことが大切。	
		●自閉症	聴覚に過敏さが見られ、特定の音を嫌がることもある。 聴覚過敏のため必要な音を聞き分けようとしても、周囲の音が重なり聞き分けづらい	自分で苦手な音などを知り、音源を遠ざけたり、イヤーマフやノイズキャンセルヘッドホン等の音量を調節する器具を利用したりするなどして、自分で対処できる方法を身につけるように指導することが必要。 特定の音が発生する理由や仕組みなどを理解し、徐々に受け入れられるように指導することが大切。 音量を調節する器具の利用等により、聞き取りやすさが向上し、物事に集中しやすくなることを学べるようにし、必要に応じて使い分けられるようにすることが大切。 状況に応じてこれらの器具を使用することを周囲に伝えることができるように指導することも大切。	5身体の動き 2心理的な安定
		●弱視	遠くの文字が見えにくかったり、本などを読むのに時間がかかったりする。	遠用・近用などの各種の弱視レンズなどを使いこなすための指導することが大切。 低学年から各種の弱視レンズなどを使ってよく見える体験を繰り返すとともに、障害への理解を図り、障害による困難な状態を改善・克服する意欲を喚起する指導を行うことが大切。	
4	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 	いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすること	●視覚障害 白杖を用いて一人で市街を歩くときには、その前に、出発点から目的地までの道順を頭の中に描くことが重要。 中学部・高等部の生徒の場合	周囲の状況を把握し、それに基づいて自分のいる場所や進むべき方向などを的確に判断し行動できるように指導することが極めて重要。 必要に応じて、携帯電話のナビゲーション機能などを利用して自分の位置と周囲の状況を把握させることも考えられる。	
		●聴覚障害	補聴器等を通して得られた情報だけでは周囲の状況やその変化を十分に把握することが困難な場合。	身の回りの音を聞き取り、様子や言葉を理解する場合には、視覚や嗅覚などの感覚も総合的に活用する指導が必要。	

				その際には、情報的的確に収集するとともに、様々な感覚をいかに活用するかについても考えさせることが大切。	
		●知的障害	自分の身体に対する意識や概念が十分に育っていないため、ものや人にぶつかったり、簡単な動作をまねすることが難しかったりすることがある。	粗大運動や微細運動を通して、全身及び身体の各部位を意識して動かしたり、身体の各部位の名称やその位置などを言葉で理解したりするなど、自分の身体に対する意識を高めながら、自分の身体が基点となって位置、方向、遠近の概念の形成につなげられるように指導することが大切。	
		●LD	視知覚のみによって文字を認識してから書こうとすると、目と手の協応動作が難しく、意図している文字がうまく書けないことがある。	様々な感覚を使って多面的に文字を認識し、自らの動きを具体的に想像してから文字を書くことができるような指導することが大切。	
		●聴覚障害	背後や外の様子等、周囲の状況を的確に把握できにくいことがある。周囲の人とのコミュニケーションの不十分さなどの影響で、物事がどのように推移してきたか、相手がどう思っているか、これから何が始まるかなどについて、予想できにくい場合もある。	視覚や嗅覚等の様々な感覚を活用して情報を収集したり、多様な手段を活用した積極的なコミュニケーションを通して相手を理解したりするとともに、それまでに得ている情報等と照らし合わせたりしながら、周囲の状況や人の気持ち、今後の展開等を推察することが必要。	3人間関係の形成 4環境の把握 6コミュニケーション
		●肢体不自由	目と手を協応させた活動が難しい。興味をもって見る対象が限られていることや、頭部が安定せずに対象を一定時間見続けることができないことが考えられる。	頭部を安定させるための補助具を活用したり、前腕で上体を支えやすくする姿勢の保持を工夫したりするなどして、目の前に置かれた興味のある玩具を注視したり、ゆっくり動く教材などを追視したりする力を高めていくことが大切。物を操作する経験を重ね、目で手の動きを追うような力をつけていくことも必要。	4環境の把握 5身体の動き
5	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	●視覚障害	事物・事象の全体像を捉え、必要な情報を抽出して、的確な概念を形成することが難しい。	触覚や保有する視覚などを用い、対象物の形や大きさ、手触り、構造、機能等を観察することで、的確な概念を形成できるようにするとともに、それらの概念を日常の学習や生活における認知や行動の手掛かりとして活用できるように指導することが大切。	
	ものの機能や属性、形、色、音が変化の様子、空間、時間、等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすること	●肢体不自由	身体の動きの制限により、上下、前後、左右、遠近等の概念の形成が十分に図ら	自分の身体の各部位を確認するような活動を通して、自分の身体に対する意識を明確にするととも	

	れず、空間における自分と対象の位置関係を理解することが困難。	に、行動の基準を言葉で確認しながら、空間概念の形成を図ることが必要。	
●知的障害	概念を形成する過程で、必要な視覚情報に注目することが難しかったり、読み取りや理解に時間がかかったりすることがある。	興味関心のあることや生活上の場面を取り上げ、実物や写真などを使って見たり読んだり、理解したりすることで、確実に概念の形成につなげていくよう指導することが大切。	
●自閉症	「もう少し」「そのくらい」「大丈夫」など、意味内容に幅のある抽象的な表現を理解することが困難な場合があるため、指示の内容を具体的に理解することが難しい。 興味のある事柄に注意が集中する傾向があるため、結果的に活動等の全体像が把握できない	指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うとともに、手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を形成できるようにすることが大切。 一部分だけでなく、全体を把握することが可能となるように、順序に従って全体を把握する方法を練習することが大切。	
● ADHD や自閉症	活動に過度に集中してしまい、終了時刻になっても活動を終えることができない。	活動の流れや時間を視覚的に捉えられるようなスケジュールや時計などを示し、時間によって活動時間が区切られていることを理解できるようにしたり、残り時間を確認しながら、活動の一覧表に優先順位をつけたりするなどして、適切に段取りを整えられるようにすることが大切。	
● LD	左右の概念を理解することが困難な場合があるため、左右の概念を含んだ指示や説明を理解することがうまくできず、学習を進めて行くことが難しい。	様々な場面で、見たり触ったりする体験的な活動と「左」「右」という位置や方向を示す言葉と関連付けながら指導して、基礎的な概念の形成を図ることが重要。	
●弱視	見ようとするものに極端に目を近づけたり、見える範囲が限られる場合があったりするため、全体像が捉えにくく、地図やグラフなどに示されている情報の中から必要な情報を抽出することが困難なことが多い。	不必要な情報を削除したり、コントラストを高めたりして認知しやすい教材を提供するとともに、これまで学習してきた知識やイメージを視覚認知に生かすなどの指導を行うことが大切。	
●聴覚障害		視覚的な情報を適切に活用して作業等を行うことが大切。それぞれの作業過程を的確な言葉に結びつけていくことが大切。	4環境の把握 6コミュニケーション 4環境の把握

			<p>●肢体不自由</p>	<p>ものの機能や属性、形、色、音を分類する基礎的な概念の形成を図ることが難しい。 上肢操作や手指動作のぎこちなさの他に、見えにくさや聞こえにくさなどを有していることが少なくない。</p>	<p>手掛りとしやすい情報の提示方法を明らかにして、多くのものに関わらせ、それぞれのものの特徴を把握させることが大切。</p>	<p>5身体の動き 6コミュニケーション</p>
--	--	--	---------------	---	---	---------------------------------------

平成30年告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 内容一覧表

H31.2 八代市立八代支援学校 支援部作成

⑤ 身体の動き						P.83～ P.91
項目	項目の意味	具体例	背景・原因	対応策	他区分との関連例	
1 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ること意味している。	●肢体不自由	基本動作が未習得であったり、間違っ て身に付けてしまったりしているために、 生活動作や作業動作を十分に行うことが できない場合がある。	全身又は身体各部位の筋緊張が強すぎる場合、そ の緊張を緩めたり、弱すぎる場合には、適度な緊 張状態をつくりだしたりすることができるような 指導が必要		
		●筋ジストロフィー		関節拘縮や変形予防のための筋力の維持を図る適 度な運動が必要。		
		●知的障害	知的発達程度等に比較して、身体の一部 位を適切に動かしたり、指示を聞いて姿 勢を変えたりすることが困難な者がい る。	より基本的な動きの指導から始め、徐々に複雑な 動きを指導する。そして、次第に、目的の動きに 近付けていくことにより、必要な運動・動作が確 実に身につくように指導する。		
		●視覚障害	身体の動き等を模倣することを通して基 本的な運動・動作を習得することが困難	姿勢や身体の動きについて、教師の身体や模型な どに直接接触させて確認させた後、自分の身体を実 際に使って、その姿勢や動きを繰り返して学習する とともに、その都度教師が、口頭で説明したり、 手を添えたりするなどして、正しい姿勢の保持や 運動・動作を習得することが大切。 *必要に応じて医師等の専門家と十分な連携を図 ることが大切。		
2 姿勢保持と運動・動作の補助的 手段の活用に関すること。	姿勢の保持や各種の運動・動作が困 難な場合、様々な補助用具等の補助 手段を活用してこれらができるように すること	●ADHD	身体を常に動かしている傾向があり、自 分でも気付かない間に座位や立位が大き く崩れ、活動を継続できなくなってしまう ことがある。	姿勢を整えやすいような机やいすを使用すること や、姿勢保持のチェックポイントを自分で確認で きるような指導を行うことが有効な場合がある。	2心理的な安定 4環境の把握	
		●重複重複	自分で自由に姿勢を変えたり、座位や立	補助用具 ・座位安定のためのいす、作業能率向上のための 机、移動のためのつえ、歩行器、車いす及び白杖 等持ちやすいように握りを太くしたり、ベルトを 取り付けたりしたスプーンや鉛筆、食器やノート を机上に固定する装置、着脱しやすいようにデザ インされた衣服、手すりなどを取り付けた便器 ・コンピューターの入力動作を助けるための補助 用具 *必要に応じて医師等の専門家と十分な連携を図 ることが大切。	4環境の把握	

			位を保持したりすることが困難	ることが大切 視覚や触覚などを積極的に活用するように教材・ 教具や環境の設定を工夫することが大切	5 身体の動き	
3	日常生活に必要な基本動作に関する こと。	食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入 浴などの身辺処理及び書字、描画等 の学習のための動作などの基本動作 を身につけることができるようにす ること		ア 安定した座位を確保しながら、両腕を体の前 へ伸ばすことができること。 イ 身体の正面で両手を合わせることができ、指 を握ったり開いたりすることができること ウ 身体のほとんどの部位へ指先が届くこと エ 手の動きを目で追うこと 以上のような動作を実際の日常生活で使うことが できるまで習慣化していくことが大切。		
			●知的障害	目と手指の協応動作の困難さや巧緻性、 持続性の困難さなどの他、認知面及び運 動面の課題、あるいは日常生活場面等に おける経験不足などが考えられる。	興味や関心が持てる内容や課題を工夫し、使いやす い適切な道具や素材に配慮すること。	4 環境の把握
			●LD	鉛筆の握り方がぎこちなく過度に力が入 りすぎてしまうこと、筆圧が強すぎて行 や枠からはみ出してしまうことなど細か いコントロールが苦手な者もいる。更に 上手く取り組めないことにより焦りや不 安が生じて余計に書字が乱れてしまう。	本人の使いやすい形や重さの筆記用具や滑り止め付 き定規等、本人の使いやすい文具を用いることによ り、安心して取り組めるようにする。またキーボ ード入力等で記録することや黒板を写真に撮ること、 ICT機器を用いて書字の代替を行うことも大切。	2 心理的な安定 4 環境の把握
4	身体の移動能力 に関する こと。	自力での身体移動や歩行、歩行器や 車いすによる移動など、日常生活に 必要な移動能力の向上を図ることを 意味している。	●視覚障害		発達の段階に応じて、伝い歩きやガイド歩行、基 本的な白杖の操作技術、他者に援助を依頼する方 法などを身に付けて安全に目的地まで行けるよう 指導することが重要。	
			●弱視		白杖を用いた歩行の際に、保有する視覚を十分に 活用したり、視覚補助具を適切に使ったりできる 力をつけることも必要。	
			●心臓疾患	心臓への負担がかかることから歩行によ る移動が制限されることがある。	必要に応じて歩行器や電動車いす等の補助的手段 を活用することになる。このような場合には、医 師の指導を踏まえ、病気の状態や移動距離、活動 内容によって適切な移動手段を選択し、心臓に過 度の負担をかけることなく移動の範囲が維持でき るように指導することが大切。	

			●肢体不自由		車いすの操作に慣れるとともに、目的地まで車いすを操作し続けるための体力がなければならない。また、周囲にいる人に質問したり、依頼したりするコミュニケーションについても習熟しておくことが大切。	4環境の把握 6コミュニケーション
5	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに作業を円滑に遂行する能力を高めること	●肢体不自由	左右を協調させた上肢操作のぎこちなさのため、ひもをつまんだり、交差させたりしてひもを結ぶことが困難になる。	指の曲げ伸ばしをしたり、指を対向させたりするような物を介さない基本的な動きを取り入れるとともに、必要に応じて片方のひもを押さえておく補助具を活用することが有効	
			●ADHD	注意の持続の困難さに加えて、目と手の協応動作や指先の細かい動き、体を思った通りに動かすこと等が上手くいかないことから、身の回りの片付けや整理整頓等を最後まで遂行することが苦手なことがある。	身体をリラックスさせる運動やボディイメージを育てる運動に取り組みながら、身の回りの生活動作に習熟することが大切。	
			●自閉症	自分のやり方にこだわりがあったり、手足を協調させてスムーズに動かしたりすることが難しい場合がある。他者の意図を適切に理解することが困難であったり、興味のある一つの情報のみに注意が集中してしまう。	作業のやり方へのこだわりを和らげたり、子どもと教師との良好な人間関係を形成し、子どもが主体的に指導者の示す手本を模倣しようとする気持ちを育てることが大切。	2心理的な安定 3人間関係の形成
			●知的障害	粗大な運動・動作には、問題は見られないものの、細かい手先を使った作業の遂行や持続が難しい。その要因としては、自分の身体の各部位への意識が十分に高まっていないことや、両手や目と手の協応動作の困難さ、巧緻性や持続性の困難さなど、認知面及び運動・動作面の課題、あるいは日常生活場面等における経験不足などが考えられる。	単に訓練的な活動とならないように興味や関心の持てる内容や課題を工夫し、楽しんで取り組めるようにしたり、ものづくりをとおして、他者から認められ、達成感が得られるようにしたりして意欲的に取り組めるようにすることが大切。 (手遊びやビーズ仕分け、ひもにビーズを通すなど)	4環境の把握

平成30年告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 内容一覧表

H31. 2 八代市立八代支援学校 支援部作成

⑥ コミュニケーション						P.92～P.102
項目	項目の意味	具体例	背景・原因	対応策	他区分との関連例	
1	コミュニケーションの基礎的能力に関すること。	表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けること	●障害が重度で重複している		話し言葉によるコミュニケーションにこだわらず、本人にとって可能な手段を講じて、より円滑なコミュニケーションを図る必要がある。周囲の者は、幼児児童生徒の表情や身振り、しぐさなどを細かく観察することにより、その意図を理解する必要がある。	3人間関係の形成 5身体の動き 等
			●聴覚障害		相手を注視する態度や構えを身に付けたり、自然な身振りで表現したり声を出したりして、相手とかわることができるようにしたりするなど、コミュニケーションを行うための基礎的な能力を身に付ける必要がある。	
			●自閉症	興味のある物を手にしたいという欲求が勝り、所有者のことを確認しないままに、他者の物を使ったり、他者が使っている物を無理に手に入れようとしたりすることがある。	周囲の者はそれらの行動が意思の表出や要求を伝達しようとした行為であることを理解するとともに、幼児児童生徒がより望ましい方法で意思や要求を伝えることができるよう指導することが大切である。	
			●言語発達に遅れがある	語彙が少ないため自分の考えや気持ちを的確に言葉にできないことや相手の質問に的確に答えられないことなどがある。	幼児児童生徒の興味・関心に応じた教材を活用し、語彙を増やしたり、ことばのやりとりを楽しむことが必要	
			●知的障害	自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えられなかったり、相手の意図が理解できなかったりしてコミュニケーションが成立しにくいことがある。	自分の気持ちを表した絵カードを使ったり、簡単なジェスチャーを交えたりするなど、要求を伝える手段を広げるとともに、人とのやりとりや人と協力して遂行するゲームなどをしたりするなど、認知発達や社会性の育成を促す学習などを通して、自分の意図を伝えたり、相手の意図を理解したりして適切なかわりができるように指導することが大切である。	
2	言語の受容と表出に関すること。	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすること	●脳性まひ	内言語や言葉の理解には困難がないが、話し言葉が不明瞭であったり短い言葉を伝えるのに相当な時間がかかったりすることがある。	発語機能の改善を図るとともに、文字の使用や補助的手段の活用を検討して意思の表出を促すことが大切である。	
			●聴覚障害		言葉を構成している音節や音韻の構造、あるいは	

				文字に関する知識等を用いながら、言葉が使われている状況と一致させて、その意味を相手に適切に伝えていくことが大切である。また、音声だけでなく身振りを状況に応じて活用し、さらに、手話・指文字や文字等を活用して、幼児児童生徒が主体的に自分の意思を表出できるような機会を設けることが大切である。		
		●構音障害	発声・発語器官（口腔器官）の微細な動きやそれを調整することが難しかったり、音韻意識の未熟さがあったりするため、正しい発音にならないことがある。	構音運動を調整する力を高めたり、音韻意識を育て、音の弁別や自分の発音をフィードバックできるようにしたりして、正しい発音を定着させることが大切である。		
		●自閉症	他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しい	話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、他の人との関わりやコミュニケーションの基礎に関する指導を行うことが大切である。	2心理的な安定 3人間関係の形成 6コミュニケーション等	
		●ADHD	思ったことをそのまま口にして相手を不快にさせるような表現を繰り返したりすることがある。要因としては、行動を調整したり、振り返ったりすることが難しいことや、相手の気持ちを想像した適切な表現の方法が身に付いていないことが考えられる	教師との個別的な場面や安心できる小集団の活動の中で、相手の話を受けてやりとりをする経験を重ねられるようにしたり、ゲームなどを通して適切な言葉を繰り返し使用できるようにしたりして、楽しみながら身に付けられるようにしていくことが大切である。また、こうした言葉のやり取りの指導を工夫するほか、体の動きを通して気持ちをコントロールする力を高めること、人と会話するときのルールやマナーを明確にして理解させること、会話中に相手の表情を気にかけることなどを指導することが大切である。	2心理的な安定 3人間関係の形成 4環境の把握等	
3	言語の形成と活用に関すること。	コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすること	●障害の状態が重度	話し言葉を用いることができません、限られた音声しか出せないことが多い	掛け声や擬音・擬声語等を遊びや学習、生活の中に取り入れて、自発的な発声・発語を促すようにすることも考えられる。また、ときには、物語や絵本を身振りなどを交えて読み聞かせることも大切である。	
			●聴覚障害	体験したことと日本語とを結び付けることが困難になりやすい	主体性を尊重しながらも、教師など周りの人々による意図的な働き掛けが必要である。また、例えば、体験した出来事を文章（5W1H）で表現するために、まず手話で体験した出来事を表現し、その内容を日本語に置き換えながら文章を書くなど、手話を活用した日本語の指導も考えられる。	
			●言語発達におくれがある	語彙が少ないため自分の考えや気持ちを的確に言葉にできないことや相手の質問	興味・関心に応じた教材を活用し、語彙を増やしたり、言葉のやりとりを楽しんだりすることが必	2心理的な安定 3人間関係の形成等

			に的確に答えられない	要である。	
		●視覚障害	一面的な理解で、事物、事象や動作と言葉が結びつくことも少なくない。	実際に体験ができるような教材・教具を工夫したり、触覚や聴覚、あるいは保有する視覚を適切に活用したりして、言葉の意味を正しく理解し、活用できるよう指導することが大切である。	
		●LD	言葉は知っているものの、その意味を十分に理解せずに活用したり、意味を十分に理解していないことから活用できず、思いや考えを正確に伝える語彙が少ないことがある。	実体験、写真や絵と言葉の意味を結び付けながら理解することや、ICT機器等を活用し、見る力や聞く力を活用しながら言語の概念を形成するように指導することが大切である。	
4	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。	話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、他者とのコミュニケーションが円滑にできるようにすること	●視覚障害	キーボードでの入力や点字ディスプレイへの出力に慣れ、点字と普通の文字を相互変換したり、コンピュータの読み上げ機能を使って文書処理をしたりするなど、コンピュータを操作する技能の習得を図ることが大切である。さらには、点字携帯情報端末を学習や生活の様々な場面で活用することも考えられる。	
		●弱視		自分にとって学習効率の良い文字サイズを知り、拡大文字の資料を必要とする場合などに、コンピュータの拡大機能などを使って、文字サイズ、行間、コントラスト等を調整し読みやすい資料を作成できるよう指導することが大切である。また、進行性の眼疾患等で普通の文字を使用した学習が困難になった場合は、適切な時期に使用文字を点字に切り替える等、学習効率を考えた文字選択の配慮が必要である。	
		●聴覚障害		音声や手話、指文字、キード・スピーチ等を使用して、周囲とのより円滑なコミュニケーションを図ることが考えられる。また、文字や絵等を用いて、自分の考えや意思を表すことも考えられる。	1 健康の保持 2 心理的な安定 3 人間関係の形成 4 環境の把握 等
		●視覚と聴覚の両方に障害がある		保有する視覚と聴覚の活用、触覚を活用したコミュニケーション手段が考えられる。触覚を活用したコミュニケーション手段として、身振りサインに触ること、手話や指文字に触れて読み取る触手話・触指文字、指点字等があるが、障害の状態や発達段階等を考慮して、適切なコミュニケーション手段の選択・活用に努めることが大切である。	
		●知的障害	対人関係における緊張や記憶の保持などの困難さを有し、適切に意思を伝えることが難しい	タブレット型端末に入れた写真や手順表などの情報を手掛かりとすることや、音声出力や文字・写真など、代替手段を選択し活用したコミュニケー	

				<p>●肢体不自由</p> <p>●進行性の病気</p> <p>●自閉症</p> <p>●LD</p>	<p>上肢操作の制限から、文字を書いたりキーボードで入力したりすることが困難</p> <p>症状が進行して言葉による表出が困難になることがある。</p> <p>自分の意思を適切に表し、相手に基本的な要求を伝えられるように身振りなどを身に付けたり、話し言葉を補うために絵カードやメモ、タブレット端末等の機器等を活用できるようにしたりすることが大切</p> <p>読み書きの困難により、文章の理解や表現に非常に時間がかかることがある。</p>	<p>シヨンができるようにしていくことが大切である。</p> <p>画面を一定時間見るために頭部を保持しながら、文字盤の中から自分が伝えたい文字を見ることで入力のできるコンピュータ等の情報機器を活用し、他者に伝える成功体験を重ねることが大切である。</p> <p>今後の進行状況を見極め、今まで出来ていたことが出来なくなることによる自己肯定感（自己を肯定的に捉える感情）の低下への心のケアに留意するとともに、コミュニケーション手段を本人と一緒に考え、自己選択・自己決定の機会を確保しながらコミュニケーション手段を活用する力を獲得して行くことも大切である。</p> <p>簡単な絵に吹き出しや簡単なセリフを書き加えたり、コミュニケーションボード上から、伝えたい項目を選択したりするなどの手段を練習しておき、必要に応じてそれらの方法の中から適切なものを選んで使用することができるようにすることが大切</p> <p>コンピュータの読み上げ機能を利用したり、関係性と項目を図やシンボルなどで示すマインドマップのような表現を利用したりすることで、コミュニケーションすることに楽しさと充実感を味わえるようにしていくことが大切である。</p>
5	状況に応じたコミュニケーションに関すること。	場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにすること	<p>●視覚障害</p> <p>●LD</p>	<p>視覚的な情報の入手に困難があることから、場に応じた話題の選択や、部屋の広さや状況に応じた声の大きさの調節、話し方などに課題が見られることが少なくない</p> <p>話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難なため、会話の内容や状況に応じた受け答えをすることができない場合がある</p>	<p>例えば、相手の声の様子や握手をした際の手の位置から、相手の体格や年齢などを推測して話を進めたり、声の響き方から、部屋の広さや相手との距離を判断して声の出し方を調節したりするなど、場や状況に応じた話し方を身に付ける指導を行う必要がある。</p> <p>自分で内容をまとめながら聞く能力を高めるとともに、分からないときに聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度を身に付けるなどして、そのときの状況に応じたコミュニケーションができるようにすることが大切である。</p>	

●自閉症	<p>会話の内容や周囲の状況を読みとることが難しい場合があるため、状況にそぐわない受け答えをすることがある。</p> <p>援助を求めたり依頼したりするだけでなく、必要なことを伝えたり、相談したりすることが難しいことがある</p>	<p>相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなど、場面にふさわしい表現方法を身に付けることが大切である。なお、その際には、実際の生活場面で、状況に応じたコミュニケーションを学ぶことができるような指導を行うことが大切である。</p> <p>日常的に報告の場面をつくることや相手に伝えるための話し方を学習すること、ホワイトボードなどを使用して気持ちや考えを書きながら整理していくことが大切である。また、こうしたコミュニケーションの基礎的な指導を工夫するほか、安心して自分の気持ちを言葉で表現する経験を重ね、相談することのよさが実感できるように指導していくことが大切である</p>	2心理的な安定 3人間関係の形成 等
●選択性かん黙	家庭などの生活の場では普通の会話ができるものの、学校の友達とは話すことができない	気持ちが安定し、安心できる状況作りや信頼できる人間関係作りが重要である。その上で、幼児児童生徒が興味・関心のある事柄について、共感しながら一緒に活動したり、日記や作文などを通して気持ちや意思を交換したりする機会を多くすることが大切である。また、状況に応じて、筆談などの話し言葉以外のコミュニケーション手段を活用することも大切である。	2心理的な安定 3人間関係の形成 等
●入院中	入院の不安を抱えながら生活することが多い	先に入院していた幼児児童生徒の体験や気持ちの変化等を聞くことを通して、これらの行動や言葉の背景にある不安に気付かせ、遊びや話し合い等の中で、不安を言語化し、気持ちの安定につなげていくことが重要である。	2心理的な安定 3人間関係の形成 等

お尋ね等ありましたら
 八代市立八代支援学校 支援部
 0965-32-3251
 までご連絡ください

自立活動目標設定シート

学齢学年	氏名	
障がい名等		

実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習などのついでの情報収集

➡ ※幾つかの指導目標の中で優先する目標として

長期指導目標

➡ ※指導目標を達成するために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<input type="checkbox"/> 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 <input type="checkbox"/> 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 <input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解と養護に関すること。 <input type="checkbox"/> 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> 健康状態の維持・改善に関すること。	<input type="checkbox"/> 情緒の安定に関すること。 <input type="checkbox"/> 状況の理解と変化への対応に関すること。 <input type="checkbox"/> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	<input type="checkbox"/> 他者とのかかわりの基礎に関すること。 <input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解に関すること。 <input type="checkbox"/> 自己の理解と行動の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> 集団への参加の基礎に関すること。	<input type="checkbox"/> 保有する感覚の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 <input type="checkbox"/> 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> 感覚を総合的に活用した周囲の状況に合った行動に関すること。	<input type="checkbox"/> 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 <input type="checkbox"/> 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> 日常生活に必要な基本動作に関すること。 <input type="checkbox"/> 身体の移動能力に関すること。	<input type="checkbox"/> コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 <input type="checkbox"/> 言語の受容と表出に関すること。 <input type="checkbox"/> 言語の形成と活用にに関すること。 <input type="checkbox"/> コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 <input type="checkbox"/> 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

※選定された項目を関連付け
具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容		
具体的な指導場面 ○誰が ○いつ ○どこまで		
短期指導目標		